

高瀬神社 社報

# 越中一宮

第43号

平成26年9月13日

越中一宮高瀬神社

<http://www.takase.or.jp/>

撮影：南部スタジオ

社頭講話

## 「考えさせられること」

宮司 藤井秀弘

ここ数年、毎年のように梅雨や台風などの季節に関係なく自然災害が起きています。七月には当県の魚津市で、また八月には広島市で大雨による土石流が発生し、家屋や道路、橋梁が流

され、尊い人命が失われるなどの大災害がありました。テレビや新聞に無残な光景が写っており、被災された方々の心中を思うと、何ともやるせない気持ちになりました。被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。あらためて自然の力の強さに驚かされ、自然の何たるかを考えさせられました。

自然には相反する面があると思います。その一つが「破壊」という面です。人間のできる限りの能力を発揮し、最先端の科学の力をもって災害に対処していても、いとも簡単に破壊され

てしまう恐ろしい力、人知を超えた力があり、人間を恐怖の世界に突き落とします。今年の夏、全国各地に大きな被害を与えた台風や発達した低気圧などはまさしく破壊者でした。

もう一つは「育成」という面です。森羅万象すべてに生きる力を与え、手を差しのべてくれる優しい力によって、清らかな水や豊かに実った穀物や植物などが育ち、私たちの生命を繋いでくれています。

自然の営みは遙か昔から変わらずに今に至っているわけですが、最近では異常気象といわれています。厳しい面があり、優しい面がある自然の姿を私たち祖先はどのように捉えていたのでしょうか。

多分、自分たちの力ではどうにもならない偉大な力に神の姿

を見出し、そこに崇敬の心が生まれ、社を建て、神霊を祀り、拜んできたのだと思います。

古代中国の思想に「黄河の水を征する者は中国を征する」といった言葉がありますが、自然を征服するという発想は当時の日本人には無かったのではないのでしょうか。むしろ自然を神と崇め、自然に寄り添い、自然の恩恵を享けて生活してきました。たとえ災害に遭おうとも自然と対峙せず、人々が協力し合い、自然の再生力（「育成」の力）をもって元の生活に向けて復興の努力を重ねてきたのです。人間も自然の一部であることを常に感じて、自然と共に生きてきたのです。

大自然の中で破壊と再生が繰り返され、その中で必死に努力して現在に至っています。

環境破壊は全地球規模で進んでおり、我が国だけの努力では限界があります。しかし自然についてもっと関心を深めなければならぬと思います。都会に暮らしていると、自然を身近に感じる事ができないかもしれ

ません。最近流行の登山やキャンプなど、自然の中でのレジャーで事故が多発しています。原因は知識を文字や写真に求め過ぎたり、便利な機器に頼りすぎたりするからだだと思います。自然は生き物です。必ずしも本に書かれている通りではないのです。土石流が起こる前兆として、異臭がしたり川の水が急に濁ったりするそうです。常に自然の変化に注意して生活することは不可能かもしれませんが、せめて災害発生の可能性があるとき（警報や注意報が出た時など）は、避難をしたり、身の回りに起こる変化に気をつけたりしたいのです。

便利な世の中になって、自然環境適応能力が退化しているのかもしれない。祖先から受け継いできた感覚を今一度取り戻して、これから変化して行くだろう自然に適応できるよう、訓練をすべき時に来ているのかもしれない。

祭事暦

高瀬稻荷社例祭

六月三十日午前十時より、高瀬稻荷講員四十名参列のもと、※末社「高瀬稻荷社」の例祭が斎行されました。

本年も梅雨の合間の好天に恵まれ、例祭に続いて御本社にて「商売繁昌祈願祭」が行われ、講員一同の商売繁昌と職場の安全を祈りました。

※神社の社格の一つ。本社に付属する神社で、境内の内または外にある。



夏越の大祓

六月三十日午後三時より「夏越の大祓」が行われました。

拝殿にて「大祓詞」が奏上され、各人が「人形」に罪穢を移しました。その後、人形の納め

られた「茅舟」を先頭に宮司をはじめ祭員・参列者約百五十名が、向拝に設置された「茅の輪」をくぐり、残りの半年を清々しく過ごせるよう祈念しました。



「大祓」は知らず知らずのうちに犯した罪穢を半年に一度祓

い落として元の清らかな心身に戻り、続く半年も健全に過ごせるよう願う神事です。特に「夏越の大祓」は「茅の輪」をくぐり、心身を清浄にもどします。

本年も前日に氏子有志の方々に、真心込めて「茅の輪」を奉製いただきました。



除熱祭

七月二十二日（土用の三番）午前十時より「除熱祭」が斎行され、猛暑の続く夏を乗り切り、全ての農作物が無事に生育するよう祈願しました。

祭典終了後、南砺市沖（井波）の「猷穀田（奉耕者・農事組合法人ファーム八乙女）」に御幣を立て、稲を祓い清めました。

夕刻には「熱おくり太鼓」が行われ、氏子有志が町内を練り歩きました。



第十五回 人形感謝祭



海の日の前日に当たる七月二十日午前十時より、「人形感謝祭」が行われました。本年度で十五回目となる感謝祭には約七十名が参列し、子供の成長とともに古くなったり、壊れたりした「人形」や「ぬいぐるみ」に感謝の心を捧げ、お別れしました。



七夕祭並 技芸上達祈願祭



八月七日午後三時より「七夕祭並 技芸上達祈願祭」が斎行され、七夕にあわせ織姫さまのはた織り・裁縫上手にあやかって、習い事が上達するよう祈りました。当日は夏休みという事もあり、家族揃って書き記した願い事が叶うよう、心を込めてお参りました。

くにたまの会総会



七月七日、全国の大国様をお祀りする神社で組織する「くにたまの会」の平成二十六年総会が北海道神宮参集殿にて開催されました。発会后、初めて会員神社での開催となる今回は、平成二十六年度の活動計画や予算協議に続き、「樺太の神社」と題して、北海道神社庁副庁長・静内神社宮司 山田一孝氏の記念講演が行われました。来年度は当神社にて総会が開催されます。

御神山「牛嶽」開山祭



六月六日午前十時より、牛嶽山頂に鎮座する当神社の※奥宮・牛嶽社で「開山祭」が行われ、砺波・富山両市の奉賛会会員や住民約四十名が参列し、今年一年間の山の平安と、入山者の安全を祈願しました。  
※奥宮は標高九八七メートルに鎮座し、当神社の奥宮として、牛に乗った「大国主命」が祀られている。

# 第十四回人形展

## 第一期会

七月十九日(土)～  
二十日(月)祝

木彫や和紙・陶磁器等、県内外の作家十七名の創作人形が展示されたほか、草月流富山県支部「秀抱会(梅崎秀鈴会長)」による「いけばな」が会場に彩られ、期間中は大勢の人で賑わいました。



▽監 梅崎 親美 (秀抱)  
▽銘木材提供 嶋田 数男  
▽写真提供 荒井 恒雄



牛島 辰馬 (南砺市)



松本 昌子 (南砺市)



安達 陽子 (砺波市)



飛騨山静恵 (富山市)



福島まゆみ (金沢市)



長谷川創一 (南砺市)



川原 るみ (南砺市)



中島 邦子 (富山市)



宮長 由紀 (射水市)



笹波 美恵 (高岡市)



中林 雅代 (富山市)



坪川瀬都子 (氷見市)



海道 貴哉 (射水市)



熊野 幸子 (砺波市)



南部 祥雲 (高岡市)



野村 幸子 (南砺市)



草月流富山県支部「秀抱会」会長 梅崎 秀鈴

## 牛嶽のこと

当神社の奥宮・牛嶽社が鎮座する「牛嶽」。今回は故・藤井秀直名誉宮司が砺波の杜第二号（昭和四十八年八月発行）に寄稿された「高瀬神社の御神徳を讃え奉りて」より、当神社と牛嶽とのつながりについて紹介します。

高瀬神社が此の地に御鎮座になつてから二千有余年にもなるということですが、その間に御社殿が戦火に遭つたり、いろいろな争いに巻込まれたりした出来事がありました。御神徳は今も昔も変わりなく越中の守護神として民衆から親まれ、心から信仰されて来ました。

人には感情があり、自分の喜怒哀楽の情を自分で始末できないものです。越中の国の守護神として二千有余年の間、沢山の人が喜びと楽しみを感謝し、怒りと悲しみを訴えたことでありましょう。私達の祖先も人間としての喜怒哀楽を感じる事毎

に、此の高瀬の杜へ来て感謝し、祈り、訴え、親しみつゝ、お互いによりよき生き方に努力せられたでありましょう。

高瀬神社の御祭神は御存知の大国主命です。此の神様は越中の国へお越しになつた時の伝説が数多くあります。

富山県に鎮座の神社の中に牛嶽神社、宇志多気社、或は気多社などの神社はみんな大国主大神を祀つてある神社です。又、牛嶽の山々にも大国主大神の御事蹟を物語る伝説が沢山残されています。

出雲の大社造りに「横座」というものがあります。此の富山県の方言にも主人の坐る席を横座と申して、一番上席になっています。家の中心になる柱を「大柱」といつたり、それに従う柱を「ウサギ柱」といつて近年まで山家に残っていました。上の事を高といつたり、二階のことを天といつたり、幾千年も前から私達の親達が残していつた方言の中に、此の高瀬の神々の御事蹟を讃える言葉が沢山あることを思う時、私達の日常生活の中に大国主大神と私達の祖先

と現在の私達とに、今も尚、生き生きとした血と心が生きつゞけていることを物語つています。牛嶽という山の名称の由来は、越中一の宮伝記の古文書に依りますと、大国主大神が牛に乗つて歙先山に悪者共を愛撫せんとお登りになりました。それから後は牛嶽山という名称になりました。

現在も四月末頃、呉東地方から此の山を見ると乳牛のように、「まだら牛」の姿を残雪が残します。特に申しあげたいのは、大国主大神が悪者共を征伐でなく、愛撫せんとはるばる越中の国へお越しになつたといふ、「愛撫」といふ言葉です。

いつもニコニコとして兄神達の重い荷物を大きな袋に入れて背負つて、日本国土をお歩きになつた、大神の慈愛に満ちた御気持を表現した言葉です。

福徳円満の神として、私達が敬慕して止まぬ理由がそこにあります。

後世、聖徳太子が「和を以て尊し」のお言葉をお示しになつたのも大神の御心を体されてのことと信じます。

政治にも事業にも或は教育にしても大国主大神の「和」の心、則ち「愛撫」の心があれば日本の国は高天原となりましょう。

此頃よく「鬭争」とか、「勝ち抜き」とかいう言葉や、文字を使いますが非文明の国々とはとなく文化の国にはこんな殺伐な言葉も文字も不要と思います。

また大国主大神は「和」と「愛撫」の気持を人々にお教えになると共に、御自分からも実行されました。「ウサギ」をお助けになつた話、人々の病を治したり、耕作をお教えになつたり、お母さんが我が子を愛撫するよう慈愛の瞳で私達越中の人々を見守り導いて下さいました。牛嶽は「主」の嶽ということ。今も尚越中の方言に、山の「主」の大蛇とか、河の「主」の大鯰とかいふ方言が残っています。或は一家の主人のことを「主」といつて、「主はどう思うか」など。また「大人」といつて其の道の大家或は最高の権威者のことも「うし」「ぬし」といふことにもなります。

### 越中の郷土料理①

## 芋がい餅 (里芋のおはぎ)

「和食・日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録され、和食がもつ自然の美しさや季節の移ろいの表現、栄養バランスに優れた健康的な食生活などが再注目されています。今回は、毎年十二月に開催される「里芋おはぎ茶会」の主菓子にも使われる、「芋がい餅（里芋のおはぎ）」をご紹介します。

富山県南砺市は里芋の産地で、里芋を使った料理が多くあります。その中で私の最も好きな料理は里芋を使ったおはぎです。

窯の中でもち米を潰して作る餅を「かい餅」といいますが、里芋を混ぜて作られるため「芋がい餅」と言われるようになりました。



出張料理 たけや 代表 竹内秀訪

昔、米が貴重だった時代、米を節約するために里芋をブレンドした事が始まりですが、里芋の粘りがある、ねっとりとした食感が良く、米の収穫量が増えた今でも、地元で愛され続けています。

先人達の生活の知恵や風土気候を活かした郷土料理は、時代と共に変化してきた食文化を見直すきっかけとなります。そんな料理に対する想いも、受け継がれていけば良いと思います。

## 「高瀬」の由来について

高瀬の歴史は古く、『続日本紀』に、高瀬神が宝亀十一年（七八〇）に叙位された記述があることから、「高瀬」の地名は、それ以前もしくはその前後に、定着したことが推測されます。

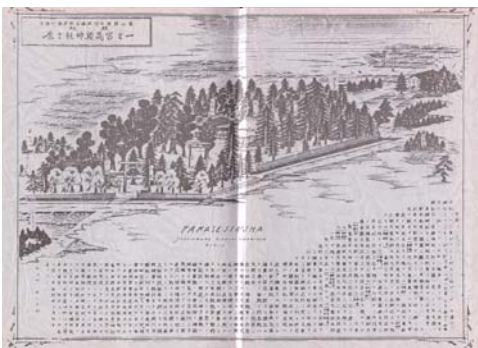
「高瀬」の地名の由来には、主に以下の説があります。

・雄神川（庄川の古称）がこの辺の高いところを流れていたのが地名となった。現在では流れていませんが、中世には庄川は西流して旧高瀬村を通って、小矢部川に合流していました。

・高瀬は「こうらい」と読み、高瀬神社は高麗権現に由来し地名となった。地域の伝承の一つに、高瀬神は高麗よりお渡りになられたというものがあります。

・米沢康氏がその研究の中で、「高」が古代において壮大さの美称に用いられたことに触

れ、「高瀬」の地名について、それが庄川の奔流に臨んだこの地区の自然的要素と、恐らく不可分な関係に発するであろうことを考えないわけにはいかない。高は、庄川の瀬の壮大さに基づく美称であったろう」（『高瀬神社の創祀と発展』（『神道史研究』巻十五第二号）と述べています。



# 新年初祈禱のご案内

〜一年の計は元旦にあり〜

福の神・結びの神様であります「大国主命（大国様）」をおまつりする高瀬神社では、全ての災厄を祓い退け、心に平安をもたらす高瀬の大神様のご神徳により、ご家族皆様の安泰と繁栄、また諸々の願いが成就するように祈る、「新年初祈禱」を承ります。

新しい年が事故・災難や病氣・怪我無く、家族の「絆」が結ばれ幸せであるよう、年頭にあたりご家族お揃いでご祈禱をお受け下さい。

・内容 家内安全（開運招福） 家族結び祈禱  
商売繁昌（事業繁栄） 他

（願意はホームページをご覧ください）

・期間 節分の頃までにご参拝ください

午前八時三十分から午後四時三十分まで  
（元旦は午前零時から午後八時頃まで）

・受付 ご祈禱入口からお入り下さい

・祈禱料 一祈願五千円より

（ご志納願います）

ご祈禱をお受けになり、  
一年間清々しくお過ごし下さい。

まず大国様に初詣



## 戌の日（安産祈願）

平成26年

9月12・24  
10月 6・18・30  
11月11・23  
12月 5・17・29日

平成27年

1月10・22  
2月 3・15・27日  
3月11・23  
4月 4・16・28日

腹帯のお祝いも行いますのでご持参下さい。

## 七五三詣（数え年）

本年は次の通りです。

- 7歳（女子） 平成20年生
- 5歳（男子） 平成22年生
- 3歳（男女） 平成24年生

※10月1日より11月末日まで、毎日午前9時より午後4時30分まで随時受け付けております。

## 平成27年 厄年・身祝一覧

（厄年）数え年

	前 厄		本 厄		後 厄	
	年齢	年次	年齢	年次	年齢	年次
男	24歳	平成4年(申)	25歳	平成3年(未)	26歳	平成2年(午)
	41歳	昭和50年(卯)	42歳	昭和49年(寅)	43歳	昭和48年(丑)
			61歳	昭和30年(未)		
女	18歳	平成10年(寅)	19歳	平成9年(丑)	20歳	平成8年(子)
	32歳	昭和59年(子)	33歳	昭和58年(亥)	34歳	昭和57年(戌)
			37歳	昭和54年(未)		

※数え年とは、満年齢に誕生日前には2歳、誕生日後には1歳を加えた年齢です。

（身祝）数え年

	年齢		生まれ年	
	年齢	年次	年齢	年次
還暦	61歳	昭和30年(未)	61歳	昭和30年(未)
古希	70歳	昭和21年(戌)	70歳	昭和21年(戌)
喜寿	77歳	昭和14年(卯)	77歳	昭和14年(卯)
傘寿	80歳	昭和11年(子)	80歳	昭和11年(子)
米寿	88歳	昭和3年(辰)	88歳	昭和3年(辰)
卒寿	90歳	大正15年(寅)	90歳	昭和元年(寅)
白寿	99歳	大正6年(巳)	99歳	大正6年(巳)

※男女ともに祝います。



### 平成二十七年「初詣献灯」の御案内

当神社では「初詣献灯」を実施致しております。本行事は、初詣期間中に正参道両側に「提灯」を掲げ、来る新年が更なる輝かしい一年となるよう、尚一層の御神徳を授けて戴くことを願ひ奉納するものです。

一、「初詣献灯」は正月七日まで、境内等参拝者道筋に献灯いたします。

一、「初詣献灯」は、それぞれ正面に希望の芳名（会社・氏名等）を記入いたします。

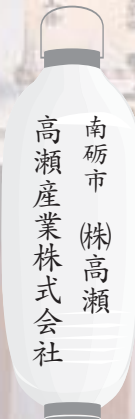
一、献灯者の家内安全・商売繁盛の祈願祭を奉仕いたします。

一、献灯初穂料は、一基につき 金壺萬円御志納願います。

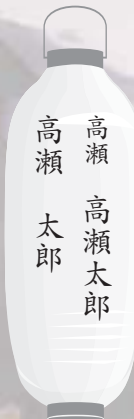
一、申込締切 十一月三十日までにお申込下さい。

※記載芳名 例（約八文字）

一、会社



二、個人



### 奉納

○「鉦鈴・鈴ノ緒」一対  
元巫女

今井映里奈殿

平成二十六年六月三十日



○「日本画」

伊藤 三春殿

・ 鵬（写真左）

河合 晴明殿

・ 黄金龍（写真右）

平成二十六年八月三日



### 編集後記

八月五日、北陸神道青年協議会の会員有志と共に、東日本大震災復興支援活動を行いました。

今回は避難指示解除準備区域である、福島県双葉郡浪江町に鎮座する神社の本殿・拝殿の解体作業でしたが、三月十一日以降、町も神社も当時のまま、時間が経過しております。

少しでも被災者の心に寄り添えるよう、今後も継続して活動を行って参ります。



【表紙写真】

### 御神楽太鼓

# 一日のできごとが、 一生の宝ものになる。



この地で二千年の歴史をもつ越中一宮 高瀬神社は、縁結びの神様をまつる神社として多くの神前挙式を執り行い、お二人の幸福を願ってきました。

巫女の先導による～参進の儀～

お二人の幸福にむかって、参進の儀から結婚式がはじまります。

## 一日一組限定の 新バンケットホール OPEN!!

縁結びの神様に誓う伝統の結婚式を挙げていただく、一生に一度の日だからこそ、一日一組のカップルの為だけに、このバンケットは生まれました。




只今  
御予約  
受付中

新バンケットホールでのご結婚披露宴のご予約を承っております。  
お気軽にお問い合わせ、ご相談いただけますよう、お待ちしております。

あなたの人生に、神社がある。越中一宮高瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291  
ご予約はTEL0763-82-1131

高瀬神社  検索

発行日 平成二十六年九月十三日

発行所 越中一宮 高瀬神社社務所

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291

TEL(0763)82-1131 FAX(0763)82-1134

編集人 長谷川宏幸

印刷所 牧印刷株式会社